

地域共生社会をめざして

「くるめ支え合うプラン(以下、「プラン」)」は、「地域共生社会」の実現をめざして、「地域福祉」を進めていくために策定するものです。まず、「地域福祉」とは何でしょう? 「地域」に、「福」と「祉」、どちらも“幸せ”を意味する漢字がくっついています。つまり、“誰もが自分らしく幸せに暮らせる地域をみんなでつくっていく”という意味です。このため、地域福祉は、暮らしに関わるすべての分野(※1)が対象です。そして、「地域共生社会」とは、“地域住民や地域の多様な主体(※2)が参画し、人と人、人と資源が世代・分野を超えてつながり、みんなで一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会”のことです。

地域には、高齢者や障害のある人、大人も子どもも、いろんな人が暮らしています。地域共生社会の実現に向けては、誰もがお互いに、かけがえのない存在として人格と個性を尊重し合い、支え合いながら、一人ひとりが自分らしく、生きる喜びを感じられることがとても大切です。

そのために、まちづくりの主役である地域のみなさん一人ひとりと、久留米市社会福祉協議会(以下、「市社協」)、久留米市(以下、「市」と)で、ともに考えていきましょう!



(※1)まちおこし、商工、農林水産、土木、防犯・防災、社会教育、環境、交通、都市計画等のこと。
(厚生労働省「地域共生社会の実現に向けた地域福祉の推進について」(令和3年3月31日改正)より)

(※2)地域コミュニティ組織(自治会、校区コミュニティ組織、各種住民団体などの総称)、NPO・ボランティア団体、企業、社会福祉法人、支援関係機関、学校、行政等のこと。

1 第2期プランについて

1-1 プランの位置づけ

- 本プランは、社会福祉法第107条に基づく市町村計画である「地域福祉計画」と市社協の計画である「地域福祉活動計画」を一体的に策定するものです。
- 市の「重層的支援体制整備事業実施計画」(社会福祉法106条の5)、「再犯防止推進計画」(再犯の防止等の推進に関する法律第8条第1項)、「成年後見制度利用促進基本計画」(成年後見制度の利用促進に関する法律第14条第1項)を包含した計画として策定します。

くるめ支え合うプラン

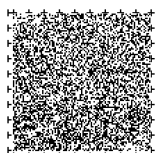
【久留米市】地域福祉計画

重層的支援体制整備事業実施計画

再犯防止推進計画

成年後見制度利用促進基本計画

【久留米市社会福祉協議会】
地域福祉活動計画



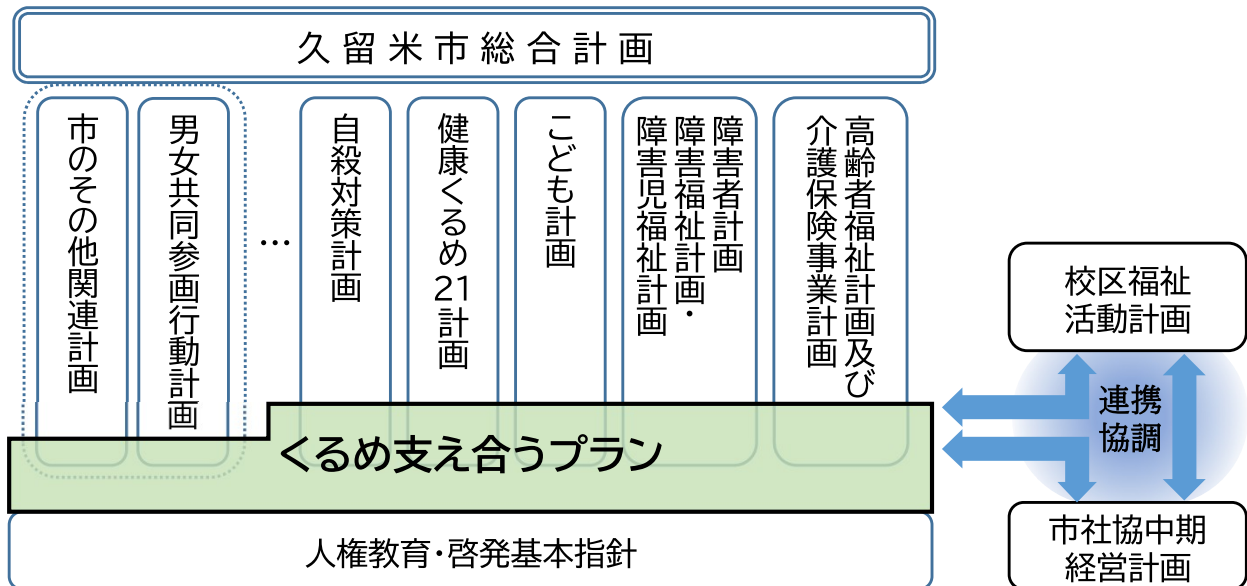
1-2 計画期間

計画期間は、久留米市総合計画との整合を図り、令和8(2026)年度から令和12(2030)年度までの5年間とします。ただし、必要に応じて見直しを検討します。

年度	H24..	..R1	R2..	..R7	R8..	..R12
地域福祉計画	第2期計画		第1期くるめ 支え合うプラン			第2期くるめ 支え合うプラン
地域福祉活動計画	第5次計画		第1期くるめ 支え合うプラン			第2期くるめ 支え合うプラン

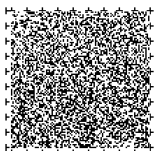
1-3 関連計画との関係

- 総合計画を上位計画とし、福祉の各分野に共通する事項や「複合的な課題」「制度の狭間の課題」への対応方策などを記載する、福祉の各計画や関連する計画の基本となる計画です。
- 各校区の「校区福祉活動計画」や市社協中期経営計画と連携・協調して取り組みます。



1-4 SDGsの達成に向けて

「SDGs」は、平成27年9月の国連サミットで採択された、持続可能な開発目標です。「誰一人取り残さない」を理念に、持続可能で多様性と包摂性のある社会を実現するための17のゴールと169の具体的なターゲットを定めています。本プランも、SDGsの趣旨を踏まえ、「地域共生社会」の実現をめざします。



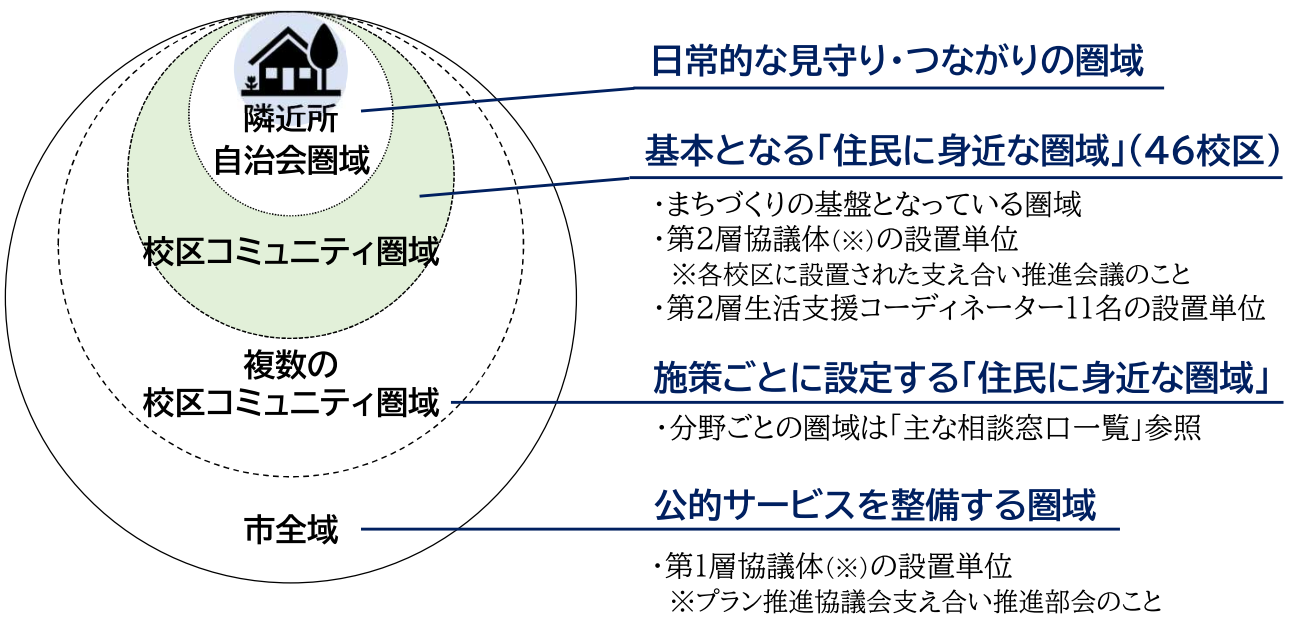
17のゴールの中でも、特に本プランと関連が深い項目は次のとおりです。



1-5 圏域の考え方

地域福祉を推進するにあたっては、地域福祉の活動や地域生活課題などに応じて、対象範囲(圏域)を柔軟に設定します。市では、まちづくりの基盤である校区コミュニティ圏域を、基本となる「住民に身近な圏域」と位置づけています。

また、施策ごとに、複数の校区コミュニティ圏域を「住民に身近な圏域」として設定する場合があります。あわせて、圏域に捉われない人々のつながりや活動が多く存在していることを踏まえると、取組みの特性から圏域を考えることも必要です。各圏域で、様々な活動が行われていることから、それぞれが重なり合いながら、連携・協働していくことが重要です。



※第1層:市全域のこと 第2層:校区単位または複数の校区(住民に身近な圏域)のこと

1-6 プランの策定経過

プランの策定にあたって、地域で活動する様々な関係者へのヒアリングやアンケート、校区でのワークショップ、市民意識調査などで、地域住民等の困りごとや地域の課題を把握しました。

また、各分野の代表が集まる『くるめ支え合うプラン推進協議会』等で話し合い、一緒に考えながら、プランの内容や取組みに反映しています。

